

冬期における外来魚蝟集水域の探索

金辻 宏明

◆背景・目的

これまで、水温の低下する冬期において、温排水の流入する特定の水域には外来魚が蝟集することを確認しているが、他の漁港や船溜まりでも蝟集が目撃されている。本研究では、これら漁港や船溜まりにおける外来魚の蝟集状況とその要因について調査検討した。

◆成果の内容・特徴

調査地点には米川船溜まり、飯浦港および水産試験場船溜まりの3地点を選定した。調査は11月から始め、1週間間隔で1月まで投網による採捕および水況調査を行った。結果を図1に示した。米川船溜まりおよび飯浦港では12月中旬または下旬までオオクチバス(以降バスと省略)が多く採捕され、ブルーギル(以降ギルと省略)は少なかった。米川船溜まりでは、蝟集時期に水温が琵琶湖に比べ最高で1.7℃高く(図2)、この水温差が蝟集の一因となっている可能性が考えられた。12月下旬以降のバスの採捕量の落ち込みは、それぞれ漁業者による駆除が続いたため、蝟集はバスについては12月初旬から調査終了までがあったものと考えられた。ギルについては採捕数が少なく、小型のものだけが採捕されたことから蝟集ではなく、元々水草の隙間に生息していたものをとらえていた可能性がある。また、飯浦港内では投網調査時に小ブナやオイカワ、ウグイも多数、採捕された。在来魚も多く蝟集していたため、バスの蝟集は外来魚特有のものかは判断できなかった。飯浦港は賤ヶ岳の南側に位置し、冬季に多い北西風の影響を受けにくいことから魚の避難所となっている可能性がある。水産試験場船溜まりでは米川船溜まりのような顕著な蝟集は観測できなかった。

◆成果の活用・留意点

温排水の流入がない水域においてバスの蝟集を確認したが、その要因について、更に検討する必要がある。また、ギルの蝟集については今回の調査では明らかにできなかったため、蝟集の有無やその要因を調査していく必要がある。

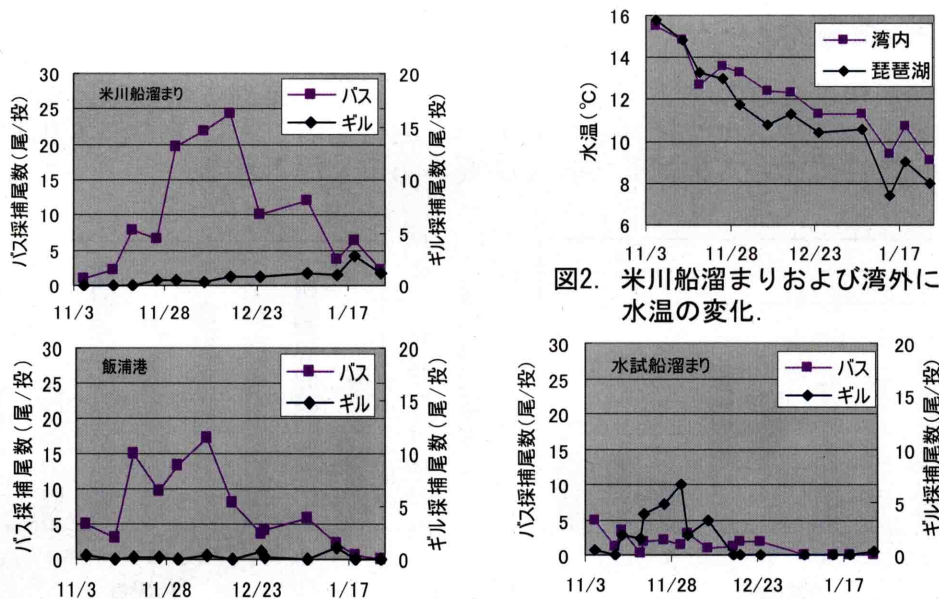


図1. 米川船溜まり、飯浦港および水産試験場船溜まりにおける投網を用いた外来魚採捕調査結果。

*この調査は水産総合研究センター委託事業の「外来魚抑制管理技術開発事業」の中で実施した。

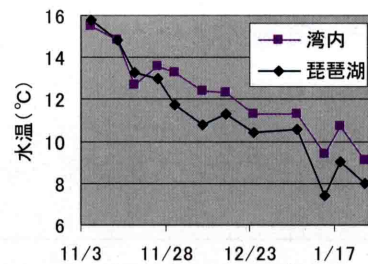


図2. 米川船溜まりおよび湾外における水温の変化。